

養化が進み、PH10~11に達する場合もあるが、本県では調査した範囲内ではまだ、そのようなPH値はみられず、比較的環境変化が少なく、自然の状態を保っているようである

表2 池の形と水生植物

生活型	種名	池形						合計
		FO	FA	FA'	FB	FC	FD	
浮葉植物	ヒシ	1	26	18			5	50
	オニビシ		3	2				5
	ヒメビシ	1	5	2				8
	ヒツジグサ		23	11				34
	ジュンサイ	1	12	10				23
	ヒルムシロ		8	6				14
	ガガブタ		1	1				2
抽水植物	ヨシ	1	25	20			4	50
	アシカキ	1	23	17	1		1	43
	カンガレイ		19	17			2	38
	ガマ		8	8			3	19
	マコモ	1	8	5			2	16
	クログワイ	1	5	8				14
	ウキヤガラ		10	4				14
	コウホネ	1	7	4				12
沈水植物	タヌキモ	1	9	5				15
	マツモ	1	3	8	1	1	1	15
	クロモ	1	7	7	1			16
	フサモ	1	6	6		1	1	15
	トリゲモ		6	5			1	12
	ミズオオバコ		2	5			2	9
	イトモ	1	6	1				8
	ヤナギモ	1	3	2		1		7
	ホッスモ	1	1	4			1	7
	フサジュンサイ		2					2
	セキショウモ		2					2
	センニンモ		2	2				4
	ヤナギスブタ	1	1	2				4
	コカナダモ			2				2
	ホソバミズヒキモ		4	1				5
合計		17	237	184	3	3	23	467

(3) 水生植物と池の形との関係  
北九州市の水環境保全基本調査報告(1974年)によれば、ため池は次の6通りに類型分類ができる。

- FO……人工堤のないもの。すなわち自然の池沼である。
- FA……一方に堤がある掌状のもの
- FA'……FAの単純な形のもの。
- FB……二方に堤があるもの。
- FC……三方に堤があるもの。
- FD……四方に堤があるもの。

この分類によると、中能登地域にはFC,FDの池形が多い。これは邑知地溝帯に起因する。その他の地域では丘陵地の谷あいを利用してつくられる場合が多い。したがって、FAまたはFA'となり、堤の反対側あるいは両側から遷移が進んでいく。

上記の分類による池形とおもな出現水生植物との関係を示すと、表2のようになる。

これを見るとFA,FA'に非常に多くの水生植物が生育しており、FD,FO,FB,FCと少なくなっている。しかし、この傾向は、本来の富栄養化の速度を考慮すると、やがてFB,FC,FDの順となっていくのではないかと考えられる。これをPH値からみるとFC,FDに出現するマツモ、ヒシ、ヨシ、カンガレイなどはPH5.0~8.4と広い範囲に生育するものであることより推測できる。

4. 結論

この調査により私達は不十分とは言え、県内淡水産池沼の主要植物の常在度、水素イオン濃度との関係、池形の類形分類と水生植物との関係を明らかにし、その実態

を解明することにより教材化への足がかりをつかむことができた。今後、さらに詳細な調査を累積し、池沼における生態系への理解を深めたい。

○石川の自然 第5集 石川県の池沼における水生植物 (石川県教育センター発行, 昭和56年3月, 57p)

石川県下188の池沼における水生植物の調査記録である。主な種の出現が池沼タイプや池水のpH値と結びつけて議論されている。調査結果が詳しく載せられているので、将来にわたって貴重な資料となるであろう。

(角野)